おばあちゃんとせんそう

古堅南小学校四年　仲田聖奈

わたしのおばあちゃんは、せんそう体験者です。おばあちゃんからときどき、わたしはせんそうの話を聞いて、とってもこわくなり不安な気持ちになります。もし、わたしが、その時代にいたら、大好きなお母さんとはなればなれになっていたかもしれない。ばくだんにあたってしんでいたかもしれない。考えるだけでもどきどきし、こわくなってしまいます。

そんなおそろしい時代、かなしい時代をのりこえて、いきてきたおばあちゃんを私はそんけいしています。わたしもおばあちゃんのような強い人間になりたいと思います。

「おばあちゃん、せんそうの時代から生きのこれてよかったと思う？」

と私が聞くと、おばあちゃんはにこにこして、

「うん、よかったよ。今は平和だし、生きのこったから、お母さんやせいなにも会えたか

ら、よかった。」

と話してくれました。

「おばあちゃん、なんでせんそうになったのかな。」

「日本人もアメリカ人も自分たちが強いっていばってたはず。そして大きなたたかいになって、たくさんの人が死んでいったんだよ。ほんとうは、こんなことになるのを、だれものぞんでいなかったはずなのにね。」

いつも、わたしたちの前では、にこにこ顔のおばあちゃんの顔がかなしそうな顔にかわりました。ほんとうは、おばあちゃんは、せんそうの話なんかしたくないのかもしれません。だって、話をするたびに、こわかったこと、かなしかったときのことを思い出してしまうので、いやだろうなあと思いました。それでも、おばあちゃんが、わたしにはなしてくれるのは、もう二度とせんそうなんかしないでほしいというおもいと、今、平和にくらせていることにきづいてほしいからだと

思います。

わたしは、おばあちゃんのことが大好きです。家族のことも大好きです。学校も大好きだし、お友だちも大好きです。今のしあわせをこわされたくはありません。なくしたくはありません。わたしたち子どもは、なぜ六十三年前に、せんそうがおこったのか、どんなようすだったのか、これから勉強しないといけないと思います。

わたしたちが勉強することが、平和なよのなかをつくっていくことにつながると思います。平和をまもっていくことにつながると思います。